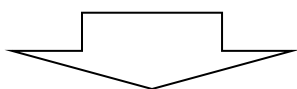


## H23.12実施の食育に係る意識調査結果より

(H24.4.23会津大学短期大学部加藤講師との検討会資料より)

- 全国のデータと比較して朝食欠食率は低い(20代以外)
- 未成年者のいる家庭でも朝食欠食率が高い。
- 「こづゆ」を食べたことのある者の割合は非常に高い。
- 食材の選択では価格が優先されている。
- 男性、女性共に60代以上で会津産の食材を購入している者の割合が高い。
- 産地の選択については放射線に対する不安の影響が見られる。(年代で異なる)
- 健康を意識している者の割合は高い。
- 食生活については女性が男性に比較して不安を感じている。
- 食事バランスガイドについて(料理における副菜としての位置づけの認知)は認知度が低い。



## 食育推進計画の取り組み方向性の視点・評価指標(詳細)

H24.8現在

○朝食とその内容・食べ方を考え、子どもの頃から「一緒に食べる」「よりよく食べる」視点を身につける

・欠食者を減らす

朝食を週4-5回以上食べないことがある20-70歳代 8% [H23意識調査] → 7%

・家族(特に子ども)と一緒に食べる人を増やす

朝食において、未成年との同居世帯で子どもと一緒に食べる20-70歳代  
55.4% [H23意識調査] → 60%

・バランスの良い食事内容で食べる人を増やす

朝食において、主食+おかずを食べる20-70歳代 66.7% [H23意識調査] → 70%  
(きちんとした食事内容を食べられるように小さい頃から主・副菜を認識して食べる人を増やす)

《参考》「鯖の味噌煮」・「冷奴」を副菜としている人 20-70歳代 33.8%・53.7% [H23意識調査]

○「こづゆ」を会津の食文化の象徴として、小さい頃から慣れ親しみ、作ることができるようになることを通して、地域産品を知ることや地域独自の調理工夫、行事など会津ならではの食文化の伝承を図る。

・こづゆを食べたこと・作ったことがある20-70歳代 52.5% [H23意識調査] → 60%

○食育に関わる人が増え、大人も子どもも食に関する知識習得、体験学習などに参加できる環境が整う。

・食育に係るネットワークに参加する団体・個人会員 0 [H23] → 増加